

日本環境教育学会第 07-4 回運営委員会議事要録 2007 年 12 月 9 日 (立教大学)

出席者／小澤、朝岡、飯尾、植田、井元、谷口、原田、山田、本庄、比屋根、諏訪、福井、陸、林 (敬称略)

1. 第 07-3 回運営委員会議事要録の確認について (省略)

<報告事項> 2. 2008 年度大会について 大会のプログラム案が報告され、運営委員会での議論をもとに、最終案を作り、1 月のニューズレターに同封する。3. 退会者の確認 11 名。4. 共催・協力・後援・協賛等の依頼 (3 件) 5. 田んぼ国際環境教育会議 2007 について 来年度は、第 19 回大会会場の学習院女子大で行なう。テーマを「田んぼ」から広げる。6. 日本学術会議環境学委員会環境思想・環境教育分科会「公開シンポジウム 環境教育 明日への提言」について 日本の環境教育の展開と提言が行われた。

<協議事項> 7. 新入会員の承認 18 名が承認された。8. 会費未納者に対する督促及び自動振替の試行について 自動振込を試行する。9. 第 3 回研究奨励賞の報告 応募者 4 名のうち 1 名を決定。応募者数が少なかったため、実施方法について検討するべき。また、2 名分は来年度に繰り越す。10. 各位委員会・担当からの報告 (1) 編集委員会から : 9 月末に 35 号を発行。36 号は環境教育指導資料について。37 号は田んぼ国際環境教育会議について。また、投稿規程を改定する。(2) 広報委員会から : ニューズレターは予定通り既に 3 号発行し、第 80 号 (8 ページ) を 1 月 25 日発刊予定で原稿は依頼済み。1 月に印刷発送の予定。(3) 企画委員会から : 他学協会・会員・行政とのネットワーク化と、来年度の大会で行なう予定の公開セミナー (これまでに 4 回実施) について、検討した。その内容については、統計の基礎、教材研究、論文の書き方などであったが、さらに別のテーマも企画中。(4) 国際交流委員会から : 韓国と台湾の環境教育学会との交流について。また、来年度の田んぼ国際環境教育会議は、経団連に助成を依頼する。(5) イノベーション担当から : 今後、紙面から WEB への移行を考えると、ますます WEB 関連の仕事が増える。11. 運営委員の補充について 規定がなく、金田委員が選出された第 9 期の選挙管理委員長と、直近の第 10 期の選挙管理委員長に意見を求めた。その意見をもとに、運営委員会で議論した結果、任期も残り少ないため、補充はしないことになった。12. 学会創立 20 周年記念事業について 2010 年の大会を 20 周年事業として準備し、第一弾として、田んぼ国際環境会議を一連の事業として捉えた。記念事業なので、今後、会長を頭として、常任委員会を実行委員会として組織する。来年度の総会までに事業の概要を提案する。13. プロジェクト研究について/大会の総括と今後の活動 今回で 3 本のテーマが 2 本となるので、今後テーマを募り、第 08-1 運営委員会で決定する。(1) 環境教育ガイドライン : 北米のガイドラインや日本の法律を知らない会員が多いのでまとめる。(2) 持続可能な開発のための教育 : なし。(3) 東アジアの環境教育実践 : 冊子を作る予定で、韓国の先生に依頼している。14. 選挙制度及び規約改正に向けた検討について ねらい、具体的改正点、役員選挙規定の説明。運営委員会で議論した結果を踏まえ、ワーキンググループで再度検討する。15. その他 3 月 9 日 (日)、関東支部に合同で博士・修士論文

の発表会を打診。関西支部・福岡支部・北海道勉強会もそれぞれ学会と合同で行って欲しい。16. 次回運営委員会について 2008年5月11日(日) 13:00~17:00 (甲南大学の東京ステーション)。